

活動報告書  
2009



動く動かす  
もう一歩、貧困のない世界へ

「動く→動かす」は、途上国の貧困問題解決に取り組む日本のNGO52団体\*が加盟するネットワークです。発足は2009年3月。「貧困を生むしくみを変える」ことを目的に、スタンド・アップを始めとするキャンペーンや、政府への政策提言を行っています。世界100カ国以上に拠点を持つ貧困問題解決のためのネットワーク Global Call to Action Against Poverty (GCAP) の日本版です。\*2009年12月31日現在

STAND UP TAKE ACTION 活動報告書2009

【発行人】熊岡路矢（動く→動かす 代表）【編集人】笠原由晶（動く→動かす 事務局）【制作】浜井美歩（ボランティアスタッフ）  
【発行所】動く→動かす 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル2F 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会（AJF）内  
TEL：03-3834-6902 FAX：03-3834-6903 E-MAIL：office@standup2015.jp  
【PCサイト】<http://www.standup2015.jp/> 【携帯サイト】<http://www.standup2015.jp/m/>  
【公式ブログ】<http://ameblo.jp/standup2015/> 【Twitter】<http://twitter.com/standup2015/>  
【グローバルサイト】<http://www.standagainstopoverty.org/>（英語・フランス語・スペイン語・ドイツ語）

  
**STAND UP**  
**TAKE ACTION**  
AGAINST POVERTY AND FOR THE MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS

# 「貧困を終わらせたい。」 その想いを立ち上がって表現しよう。

世界の貧困問題解決を目指して2000年に採択された  
ミレニアム開発目標 (MDGs)。世界189カ国のリーダーたちが  
「2015年までに世界の貧困を半減すること」などを約束しました。  
しかし、開発途上国への資金援助や技術支援は進んでおらず、  
目標の達成は大変むずかしいとされています。  
このような状況のなか、2006年に始まった  
グローバルアクション“スタンド・アップ (STAND UP)”。  
世界各地で1億7000万人以上の市民が立ち上がり、参加者数で  
ギネス記録を作って注目を集め、世界の貧困を終わらせる  
という強い声を各国のリーダーたちに届けます。

一人ひとりの行動が  
大きな動きにつながることを  
実感しました。この経験を  
周りに伝えます!  
(青森県/カフェ店員)

想いが込められた  
1枚1枚の写真を見て、  
「これならば世界は変えられる!」  
と勇気をいただきました。  
(千葉県/会社員)

2年続けて  
学校で呼びかけました。  
卒業した母校でも後輩たちが実施。  
「立ち上がる」という具体的な  
行動をきっかけに、どんどん輪が  
広がっています。  
(京都府/高校生)

次はリーダーたちの  
番です。私は選挙時に  
MDGs達成に貢献しそうな  
候補者に投票します。  
(東京都/デザイナー)

年に1回でも  
世界について考えて欲しい  
と願ひ、毎年スタンド・  
アップしています。  
(東京都/大学生)

貧困をノックアウト  
する気持ちで、これからも  
日々の稽古に励みます。  
(東京都/空手家)

## MDGs達成に向けたスタンド・アップの これまでとこれから

「貧困のない世界」を一日も早く実現して欲しい。  
2006年に産声を上げたスタンド・アップは、  
4年間で7倍にまで広がりました。  
2010年9月、世界のリーダーたちが  
ニューヨークに集いMDGsの達成を  
振り返ります。達成まであと5年。  
貧困の終わりを目指して、  
リーダーたちの背中を強く押す  
スタンド・アップが必要です。

### 【STAND UP TAKE ACTIONの運営主体】

国連ミレニアムキャンペーンとGlobal Call to Action  
Against Poverty (GCAP)\*が推進。  
日本ではGCAPの日本版「動く→動かす」が国際連合  
広報センター (UNIC) と協力して運営を担いました。

\* 100カ国以上に広がる、貧困問題解決を目的とした  
世界最大のネットワーク。



協力 国際連合広報センター (UNIC)

後援 外務省、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、  
財団法人日本ユニセフ協会



## スタンド・アップの歴史

「貧困をなくそう」という世界の人々の  
声の一つにするために、スタン  
ド・アップは始まりました。1年目  
に見事ギネス記録を樹立しました。



自身の持つギネス記録を更新し  
ました。日本でもプロサッカー国  
際試合の協力を得るなどして、参  
加者数が飛躍的に増加しました。



世界131カ国で7777のイベント  
が実施され、ギネス記録をまたし  
ても更新しました。日本では草の  
根のイベントが増加しました。



世界一大きな同時アクションとして、  
前年比約1.5倍の参加を集めまし  
た。国内では46都道府県にスタン  
ド・アップの輪が広がりました。



日本でのSTAND UP TAKE ACTION

広がるスタンド・アップの輪。

日本では3万4255人が立ち上がりました。

2009年、10月16・17・18日の3日間に実施されたイベントは世界で2番目に多い675件。アクションの輪は46都道府県にまで広がりました。国際機関やNGO関係者はもちろん、企業・労働組合・学校で、また友達や家族など身近な人を巻き込んで、さまざまな市民が貧困問題解決のために行動を起こしました。

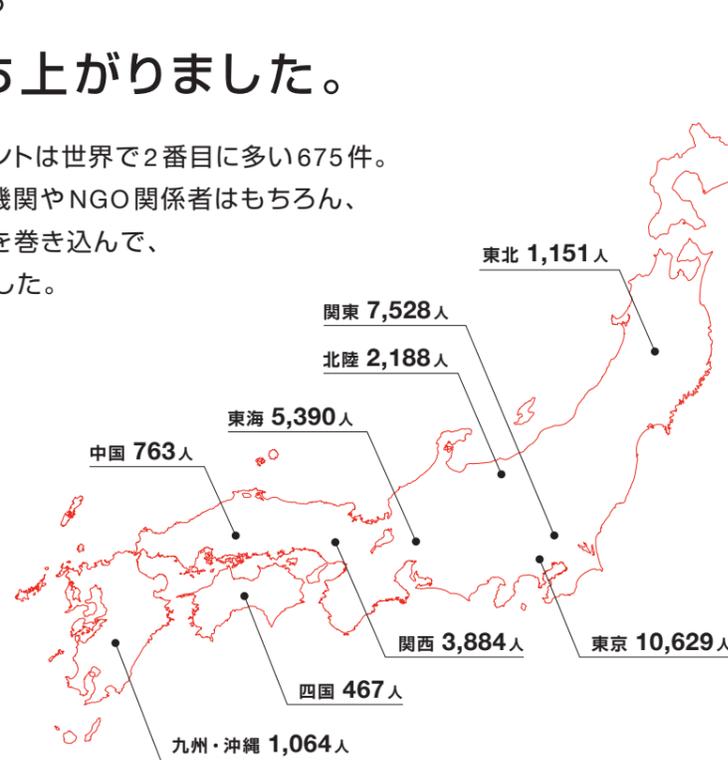
東京・東麻布 (10/16)  
東京タワーに見守られて。

「世界の不平等を見逃さない。貧困を終わらせるために私たちは立ち上がります!」。アフリカからのゲストとともに、「動く→動かす」はスタンド・アップのキックオフを宣言しました。



東京・霞ヶ関 (10/16)  
副大臣の決意。

福山哲郎外務副大臣の大きなかけ声の中、227人の外務省職員がスタンド・アップ。鳩山内閣発足1ヵ月後の記念日に、MDGs達成に一丸となって取り組む決意を示しました。



※その他、都道府県の記載はありませんでしたが357名から報告が届いています。

東京・明治公園 (10/17)  
国内ネットワークと協力。

日本国内の貧困問題に取り組む「反貧困ネットワーク」と協力して、集会の参加者300人とともにスタンド・アップ。その様子は新聞やテレビでも大きく報道されました。



[広報・メディア掲載一覧]

STAND UP TAKE ACTIONの取り組みが多くの機会に報道されました。また、「動く→動かす」でもチラシやポスターなどを制作して多くの方に参加を呼びかけました。

◎新聞掲載記事3件・・・10月15日 朝日新聞(夕刊): スタンド・アップへの参加呼びかけ、メインシンポジウムの紹介/10月16日 東京新聞(夕刊): キックオフ・イベントの様子をカラーで紹介ほか ◎テレビ2件 ◎ラジオ3件 ◎WEB掲載記事33件  
\*その他、140件以上のブログやホームページで紹介されました。



温暖化と貧困のつながりを切り口にチラシや中吊りを展開



各自で書きこんでアクションを宣言

ユニーク  
フォトコンテスト  
受賞作品

実施されたイベントの規模や内容はさまざま。その中から、ユニークフォトコンテスト受賞作品をピックアップしてご紹介します。

2人の息子とともに。

家族4人でスタンド・アップ。「毎年参加することで、少しずつ世界の現実を知って欲しい」という父から子への思いが込められています。

福井県/Family Standup



会社の各事業所で。

合言葉は「できることから始めよう!」。道内4事業所で、各部門の責任者が宣誓文を読み上げて、大きなかけ声とともに立ち上がりました。

北海道/リコー北海道株式会社



日本各地で。

2008年に続き2年目のアクション。若者らしい行動力で一般の方にも参加を呼びかけて、6地域合同で世界地図を完成させました。

茨城県、栃木県、東京都、山梨県、愛知県、島根県/ユース・エンディング・ハンガー・ジャパン



お昼休みに。

ユネスコ部が全クラスに呼びかけて実施しました。130人が笑顔で手をつないでのスタンド・アップ。

大阪府/大阪教育大学附属高等学校池田校舎



ショップの倉庫で。

スタンド・アップにはちょっとした時間でも参加できます。アウトドアショップのスタッフから報告が届きました。

千葉県/TIMBERLAND さらぼーとTOKYO BAY店



パラグライダー仲間と。

豊かな自然は人々の生活を守ります。自然への感謝を込めて、初めてスタンド・アップに参加しました。

熊本県/阿蘇ネイチャーランド



わたしの行動宣言。

両手をまっすぐ上げて、自分にできることを宣言! 「世界中の人と一緒に行動したことを忘れずに、身近な取り組みを続けていきます」。

千葉県/千葉県立銚子特別支援学校



8つの目標掲げて。

「1年1回でも世界について考えて欲しい」。手作りのミレニアム開発目標ポスターを胸の前にかかぎ、立ち上がりました。

東京都/桜美林大学



YOSAKOIソーランで。

これまでは個人で立ち上がっていた代表の呼びかけで実現しました。練習終了後にいつもの仲間とスタンド・アップ。

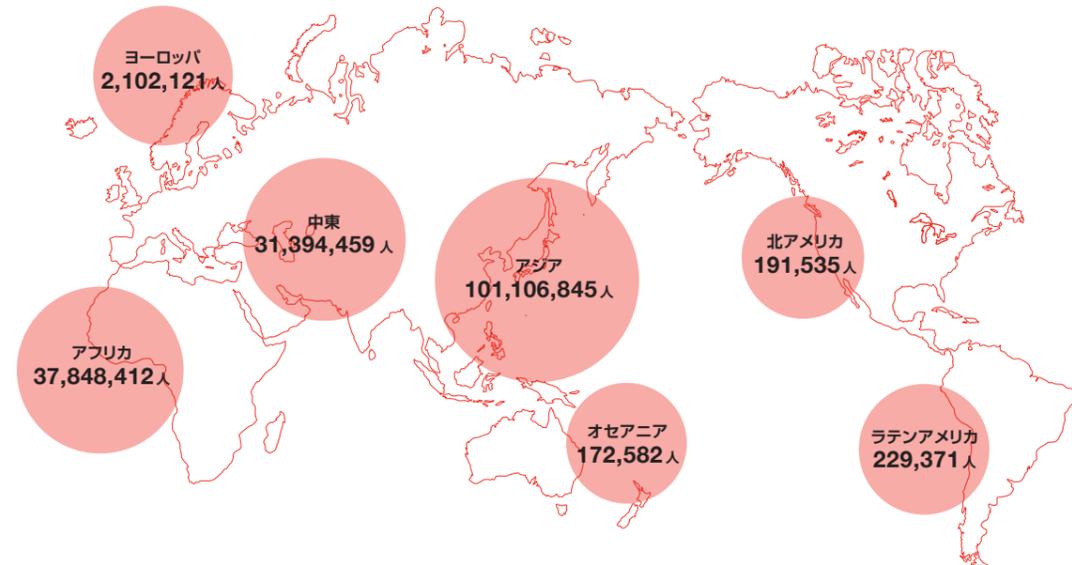
茨城県/ユニバーサルソーラン新桐舞



## 世界でのSTAND UP TAKE ACTION

# 「貧困のない世界」をあきらめない。 121カ国で1億7304万5325人が 立ち上がりました。

バングラデシュでは、ハシナ首相が2020年までに国民と団結して自国の開発を進めることを宣言。ナイジェリアでは、著名なミュージシャン フェミ・クティが、「アフリカ人自身も政府に働きかける責任がある」と6万人の前で呼びかけました。また、地震の被害を受けたイタリアでも地元の住民たちがスポーツイベントとともにスタンド・アップを実施。国境を越えた共通の声として、スタンド・アップは世界中に広がっています。



### アジア

フィリピンでは3548万688人が参加しました。2010年に予定される大統領選挙へのキャンペーン「I vote for MDGs (MDGsのために、私は1票を投じる)」を同時に行い、MDGsの達成を優先課題とするよう候補者たちに訴えました。



### アフリカ

南アフリカの人気テレビ番組「Big Brother」がスタンド・アップに協力。出演者が宣誓文を読み上げ、世界のリーダーたちに貧困解決を、アフリカのリーダーたちには、飢餓や温暖化などへの取り組み強化を求めました。



### 先進国

ニューヨークの学校で行われたスタンド・アップ。潘基文(パン・ギムン)国連事務総長の「貧困は私たちの世代で終わらせることができる。だから、行動し続けよう」というメッセージとともに立ち上がりました。



## 私たちのゴール

### ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けて

少しずつですが、MDGs達成に向けた取り組みの成果は出てきています。例えば2000年に1億4000万人だった世界の未就学児童の数は、7200万人へとほぼ半減しました。途上国政府が教育への支出を増やして、教育の無料化に踏み切ったことなどによる成果です。アフリカのブルンジでは、2005年に小学校の学費を廃止したことによって、50万人が新たに小学校に通えるようになりました。また、同じくアフリカのザンビアやタンザニアなどでは、政府が予算を医療分野に積極的に使ったり、先進国からの資金援助を活用することで数百万人が医療を受けられるようになりました。特に、医師を増やしたこと、医療費の個人負担を廃止したことによって、乳児死亡率や妊娠・出産時に命を落とす女性の数は大きく減りました。

しかし、世界では1年間で5歳未満の子どもたちおよそ1050万人が助かるはずの病気で命を落としています。もしも金融危機や経済危機を理由に途上国への支援が減らされた場合、さらに多くの命が失われることになるでしょう。

私たちは、「貧困のない世界」を実現するために必要なお金も、食料も、技術も持っています。今足りないのは、これらの使い道を決めるリーダーたちの意志です。2010年9月に、世界のリーダーたちはニューヨークで「国連MDGsレビューサミット」を行い、MDGsの達成を振り返ります。リーダーたちを動かすのは、私たち一人ひとりの行動です。スタンド・アップによって「貧困を終わらせたい」という声がさらに大きくなれば、MDGsの達成と貧困のない世界の実現が近づきます。

### ミレニアム開発目標(MDGs)とは

ミレニアム開発目標(MDGs)は、先進国と開発途上国の代表者たちがともに協力しあい、貧困のない世界を実現するためのグローバルな目標です。2000年9月の国連ミレニアムサミットで採択された「国連ミレニアム宣言」に基づいて、これまでの開発目標が統合されました。貧困問題や教育、医療など分野ごとの数値目標を定め、2015年を期限として実現を目指しています。

<b>目標1</b> とてつもない貧困と飢餓をなくそう	<b>目標2</b> みんなが小学校に通えるようにしよう	<b>目標3</b> ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう	<b>目標4</b> 子どもの死亡率を下げよう
			
<b>目標5</b> 女性が健康な状態で妊娠し、子どもを産めるようにしよう	<b>目標6</b> HIV/エイズ、マラリア、その他の病気が広がるのを防ごう	<b>目標7</b> 環境の持続可能性を確保しよう	<b>目標8</b> 世界の一員として、先進国「も」責任を果たそう
			